

2026 年度（令和 8 年度）愛知学泉大学 入試問題出題方針

科目名：基礎学力テスト【生物基礎】

1. 出題方針

・方針

高校生物基礎の教科書の全範囲から偏りのない出題を行う。高校での学習の到達度を測る内容とし、2021 年度入試から「学力の 3 要素（①知識・技術 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」を多面的・総合的に評価する入試に転換されたことから、①は本学のアドミッションポリシー(A-1)について、また、②はアドミッションポリシー(A-2)について評価できる出題内容に留意するため、論述問題は各分野（大問 1 題）のなかで、必ず 1 問は作成するよう、また、全体の中で計算問題は複雑でないものを、多くとも 2 問までとする。高等学校学修指導要領の改訂に伴い、新過程の「生物基礎」の項目に沿った内容とし、特に、概念（理論）を理解した上での用語を問う、さらに、概念・思考力を問う問題に留意し出題した。

・出題範囲

	大問分野
1	生物の特徴
2	遺伝子とそのはたらき
3	ヒトの体の調節
4	生物の多様性と生態系

上記の大問 4 題を出題範囲とし、学泉大における過去 3 年分と同一問題は出題しない。また、出題内容「高校生物基礎」の異なる教科書の 2 冊に扱われていることを確認することとした。

2. 出題形式（問題数、問題構成など）

〈問題数〉

・大問 4 題（分野は「出題範囲」を参照）とし、各分野 10 問で全回答数 40 問とした。

〈問題構成〉

・高等学校学修指導要領における言語活動（例：説明、論述、討論等）を踏まえ、論理的な思考力・判断力・表現力等を適切に評価するため、必要な問題を課す。特に、論述問題は各分野（大問 1 題）のなかで 1 問は必ず出題した（～30 字以内）。さらに、論理的思考力の判断のため、計算問題・実験中の作業の理由や反応に伴う理論、さらに、図から読み取る力、思考を図に表現できる力を問う問題を出題した。また、「発展」部分は出題せず、「参考」「実習」「実習から」等の部分は出題範囲とした。

3. 傾向と対策

出題文の読解力のもとより、基礎的・基本的な知識・技能について、高等学校卒業レベルの基礎学力を身につけているか、また、知識・技能を活用して問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等についてを問うた。また、他者にも分かり易く説明できる能力を有しているか等を問うため、字数制限のある形で論述問題を出題した。図から読み取れる力や理論を理解したうえで表現する。さらに、教科書の「参考」「実習」「実習から」の部分についても出題範囲とし、実験方法や操作の意味、高校までに学習した計算問題も理解できるようにしておくことを求める。これらの出題によって、生物基礎における高校での学習到達度をはかることとする。

2026 年度（令和 8 年度）入試問題 出題方針

科目名：基礎学力テスト【化学】

1. 出題方針

・方針

- 高校における「化学基礎」の基礎的な学習の達成度を判定する問題とする。
- 「化学基礎」の教科書の範囲を逸脱せず、出題範囲から満遍なく出題する。
- 出題は、本学のアドミッションポリシーに基づく学力水準であること。
- 平均点が 60 点程度となるようにする。令和 5 年（平均点 70 点）よりも易しくする。
- 単に知識を問う問題でなく、実験や観察に基づく問題も作成し、科学的な思考力や応用力などを見る問題を含める。
- 試験時間 60 分に対して、適切な量とする。

・出題範囲

- 高校「化学基礎」の教科書の序編、第 1 編 第 2 編から基本的な内容をまんべんなく出題する。
序 編：化学と人間生活（化学の物質等）
第 1 編：物質の構成（物質の構成粒子、物質と化学結合等）
第 2 編：物質の変化（物質量と化学反応式、化学反応、化学が拓く世界等）

2. 出題形式（問題数、問題構成など）

- 試験時間は 60 分とする。
- 問題数は 40 問とする。
- 全問解答方法は記述式とする。

3. 傾向と対策

- 「化学基礎」教科書の範囲内で、理論化学における基礎的な原理・法則、物質の構成や性質などを十分理解、暗記しておくこと。
- さらには、基礎的知識の発展として物質の変化をしっかりと学習し、物質量や化学反応式についても理解をしておくことと、標準的な計算問題も毎年出題されるので、解けるようにしておくこと。